

来ぶらり81

大学の教育内容は時代によって変化しています。近世までは人文主義（それって何と聞かれそうですが、広義に人間の尊厳を中心に据える考えと説明しておきます）的な大学教育が中心でしたが、近代以降、実学（つまり現実世界にすぐ役立つことを学ぶ）を重視する傾向が出て、現在では後者の教育に比重が置かれるようになっていきます。しかし、人文主義的な人間学も重要な教育であることには変わりありません。

日本で実学主義を言い出したのは明治時代で（また古い話になりますが）、福沢諭吉がこの言い方を使いました。御存じのように、明治時代は長い眠り（と江戸時代のことを私は教わりました）から覚めた人々がヨーロッパに追いつこうとして、猛烈な欧化政策を行っていた時代でしたから、諭吉が塾を開き、実学志向を取ったのは無理もない話でした。しかし、そのことで悩んだ人もいます。夏目漱石のことです。（漱石は私の研究している英文学の大先達なので、私の話にはしばしば登場します）私流に言えば、漱石は人文主義と実学主義の間で悩んだ人です。そのことを書き出すと長くなりますから止めておきます。

漱石は東京帝国大学でラフカディオ・ハーンの後任の教授になりました。ですから、彼の小説に大学の話が出てきても不思議ではありませんが、『三四郎』（漱石は最近あま

昔おかしの大学、 今いまの大学

図書館長

塩谷清人（文学部教授）

り読まれないのか、文庫版はともかく、全集版*は大学図書館では開架でなく、書庫で眠っています）は英国流に言えば、まさにキャンパスノヴェルです。当時の大学のありさま、大学生の生態が手に取るように描かれています。（その意味では大変面白い本ですからご一読をお勧めいたします。それに今年は『三四郎』刊行百周年に当たります。記念にもどうぞ）

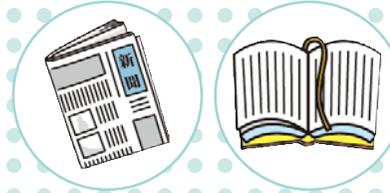
当時、大学は9月始まりでした。九州から上京したばかりのうぶな三四郎は開講日に行きますが、教室には誰もいません。事務員に尋ねると、「それは先生が居ないからだ」と答えています。明治という激動期で、大学教育も猛烈なものかというところでもなくて、のんびりしたものです。さらに読み進めていくと、知り合った佐々木與次郎という男が「大学の講義は詰らんなあ」と今でも聞きそうなことを言います。講義中もひそひそ話をしたり、落書きしたり、と今の学生と変わりません。

というわけで、三四郎は講義の出席を減らし、與次郎が「講義は駄目だが、図書館は大切だと主張する男」だったこともあって、図書館に長居するという次第です。あとの話は割愛しますが、図書館は知の宝庫、シソーラス (thesaurus) です。どうぞご活用ください。

*『漱石全集』（岩波書店 1993）
大学図書館・書庫 910.81/270

“大学図書館はあなたに近い”

ちょっと時間が空いてしまったとき、図書館は皆さんの味方です。
毎日できる図書館の歩き方。是非実践してみてください。



① ゲートを入ってすぐにある展示コーナーを眺めましょう

2ヶ月毎にテーマが更新される展示資料。
貸出もできます（一部例外あり）。
希望者は1階カウンターまでお気軽にどうぞ。

② 入口正面奥にある新聞閲覧コーナーで時事問題に強くなる！

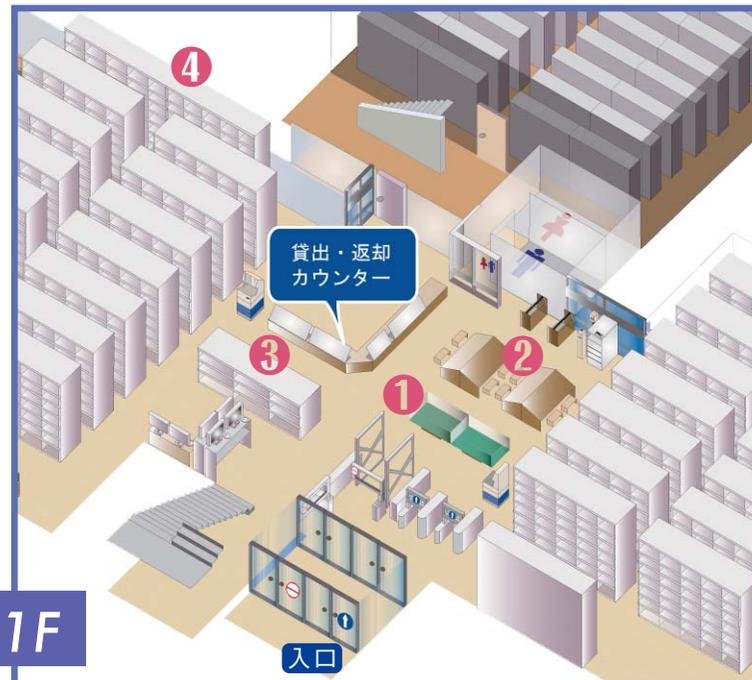
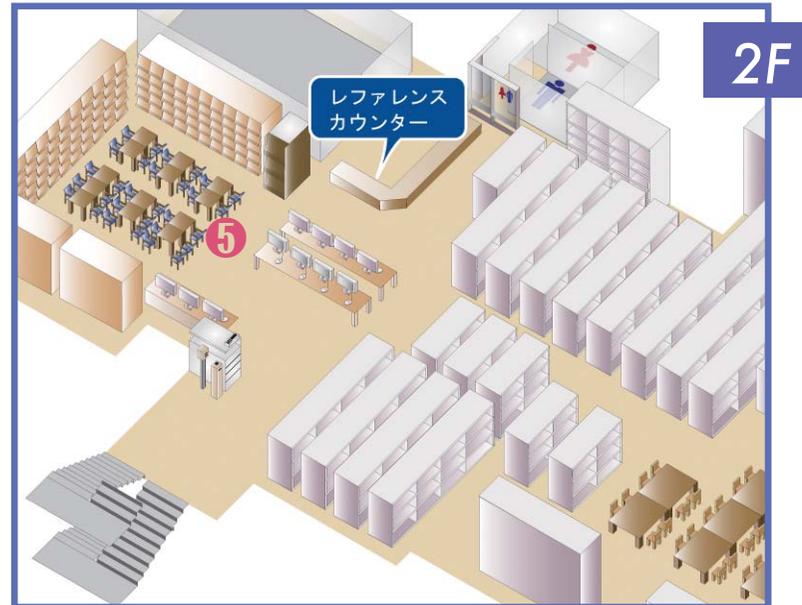
新聞閲覧台の主要新聞のほか、コピー機横には政党や海外の新聞、スポーツ新聞も揃えています。
詳細は大学図書館HP「所蔵新聞リスト」にあります。

③ テレビや新聞で話題の本をベストセラーコーナーで探しましょう

カウンター前のベストセラーコーナー、資格コーナーの本を忘れずにチェック。
語学や資格の問題集、更にPCや就職に関する情報もここで。

④ そうそう、帰りの電車内で読む文庫本があったらいいな

そんなときは奥の文庫本コーナーへ。
新潮文庫をはじめとした魅力的な文庫本が壁一面に並んでいます。



⑤ 雑誌室へも行ってみよう

大学図書館の雑誌というと学術雑誌ばかり想像してしまいがちですが、実際には週刊誌やスポーツ雑誌、出版情報誌といった幅広い分野の雑誌も所蔵しています。

こんな雑誌もあります

急な休講や授業の合間の空き時間、昼食後の小休止などに図書館へぶらりと立ち寄り、気になる雑誌を手にとって、ぱらぱらとページをめくってみてはいかがでしょうか。



【本の雑誌】
2007年11月号
本の雑誌社
2007年11月1日発行

書評・本の紹介を中心に
活字文化に関わる情報を掲載



【暮しの手帖】
2007年10-11月号
暮しの手帖社
2007年10月1日発行

今年で創刊60年、
暮らしに役立つ知識を提供



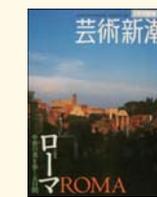
【広告批評】
2007年11月号
マドラ出版
2007年11月1日発行

広告を分析して
時代の流行を知る雑誌



【日本児童文学】
2007年9-10月号
日本児童文学者協会
2007年10月1日発行

日本の児童文学の動向を伝え、
作品に触れる



【芸術新潮】
2007年8月号
新潮社
2007年8月1日発行

さまざまな視点から
あらゆる“美”を紹介



【Dance Magazine】
2007年12月号
新書館
2007年12月1日発行

バレエダンサーの写真満載の
グラフィックマガジン



【Tennis Magazine】
2007年12月号
ベースボール・マガジン社
2007年12月1日発行

テニスのテクニック解説や
話題を掲載する専門誌



【週刊ベースボール】
2007年12月10日号
ベースボール・マガジン社
2007年12月10日発行

野球を知らない人も読める
日本で唯一の野球週刊誌

▶▶ セミナーやガイダンスを活用しよう！ 一手遅れにならないために

レポート提出の期限が迫り、とりあえずネットの情報をコピーして提出したとか、ゼミの発表に必要な資料を探せずに困った、そんな状況に置かれたことはありませんか。

大学生という恵まれた身分を満喫させるには、サークル活動や友人との語りももちろん、**学ぶ**ことを大事にすることです。大学図書館は、学びたい人をバックアップするために、各種セミナーやガイダンスを行っています。

ほかの人よりハイレベルなレポートを書いたり、ゼミの発表でしっかり論拠を述べたり、卒論を書いたりするには、どうしても**“文献”**が必要になります。そんなとき、大学図書館が実施しているセミナーは大変有効です。今年度も昨年度と同様「もう悩まないレポート・論文必勝法データベース検索セミナー」「まだ間に合う！図書館に急げ！卒論追い込みセミナー」や先生方の要望で授業時間に**ゼミ単位のガイダンス**を行います。絶対損はないはず。ぜひ参加しましょう。とにかく発表や提出の直前にあわてないように早めに手を打つことが肝心です。詳細はホームページや掲示等でお知らせします。



■ 大学図書館運用課／工藤晶子

▶▶ オンラインで使える「辞書」や「事典」

聖徳君は困っていた。「今日発表した冠位十二階、詳しく教えて」というメールが殺到したのだ。

聖 困ったなあ・・・

実は、あまり詳しく調べていなかったのだ。

聖 図書館はもう閉まっているけど・・・ん、そうだ！

パソコンに向かい大学図書館のホームページを開いた聖徳君。

聖 確かデータベースNAVI*だけ

画面上部の**資料検索**メニューから**データベースNAVI**をクリックすると、新しいウィンドウが開く。その画面左側の**分類から探す**にある**辞書／事典類**をクリックすると、画面右側に学習院で使える辞書や事典のデータベースが一覧表示された。

聖 これだ！**Japan Knowledge**、一度にいろんな事典や辞書から検索してくれるんだよね

画面上部にある検索語入力欄に、【冠位十二階】と入れて検索してみると、使われた冠の色まで詳しく書かれていて一安心。説明にあった分からない言葉は、**日国オンライン**（『日本国語大辞典』のデータベース）で再度検索した。

聖 便利だな～ 蘇我君にも教えてあげようっと！

*データベースNAVI <http://glim-els.glim.gakushuin.ac.jp/source/dbnavi/>

■ 大学図書館運用課／佐藤飛鳥



■ 「来ぶらり」のバックナンバーは(<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/glim/collection/library/raiburari.html>)で公開しています。■

来ぶらり No.81 2008年4月1日発行

発行責任者：塩谷清人 編集委員：奥富美智代・入村圭紀

学習院大学図書館 〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

☎03-3986-0221(代)内2396(レファレンス)内2397(閲覧)03-5992-1009(閲覧直通)